

A black and white photograph of a group of nine people, including seven men in suits and two women in judo uniforms, standing and kneeling on a stage. One woman is holding a certificate, and a trophy is visible in the foreground.

優勝・伊田テクノス本社

伊田テクノス本社

※3回戦以上、122 チームが参加



今日はいまうかみ合ってこういう結果が出てうれしいです」(佐々木誠監督)

同社では、大東文化大の監督も務める榎崎亘七段が昨年社長に就任したばかりで、いきなりの吉報となった。

惜しくも連覇を逃したパナソニックだが、同社はグループ会社も含めると12チームが参加。世界大会の日本代表選手や全国大会優勝経験者等が名を連ねている上、稽古場も充実しているだけに、次回以降も目が離せない存在といえる。

A black and white photograph capturing a moment of intense sparring between two kendo practitioners. Both are clad in traditional protective armor (bogu), including helmets (men) with face guards and chest protectors (do). They are barefoot, a traditional aspect of the sport. The practitioner on the left is in a slightly lower stance, while the one on the right is more upright. They are engaged in a 'tsubazeriai' (spear-holding) position, with their bamboo swords (shinai) crossed horizontally in front of them. The background is a blurred indoor arena with spectators and a banner featuring Japanese characters, including '全日本' (All Japan).



終盤に高橋が流れのなかから見事な跳び込みゴテを決める(写真)。中堅戦と大將戦では両軍積極的に技を出し合ったものの一本は発生せず、伊田テクノスが逃げ切る

長年に渡って強豪として知られている伊田テクノスだが、女子大会において、男女通じて初の日本一になった。関東大会では2位の経験はあったものの、全日本では過去2回の出場で一度もベスト8に入ったことがなかったそうだから、大躍進といえよう。

途中2度の代表戦があつたが、いずれも大将の志藤が登場して勝利。準決勝と決勝では、東奥義塾高校から大東文化大学に進み、全日本女子選手権の出場経験もある高橋が底力を發揮。高橋が得た勝利を後衛の二人がしっかりと守りきった。

「毎年一人ずつ女子が入ってくれ、努力は人一倍していて個々の能力は高い。

伊田テクノス初優勝

平成31年3月2日(土)
東京武道館
主催 全日本実業団剣道連盟
取材・文 安藤雄一郎
撮影 窪田正仁



アラカルト



女子の部に参加をしたのが今回が2回目。前回は2回戦敗退で、今回は惜しくも緒戦敗退に終わった。「大学時代に剣道をしていた強い選手が入ってくれたものだから、これはチャンスと思って参加しました」

4人とも大城戸功範士八段が館長を務める松風館に所属している。そこでも稽古を重ねているそう。なかかつ全員が松山大学の出身。濱田華菜子選手(左端)と小川美玲選手(その右隣)が同期生だ。高知で開催されている西日本勤労者大会にも出場している。男女混合の大会だが、「(次の目標は)この大会で男子相手に勝ちたい」(濱田選手)。

五段以下の部最年長

現在は、地元である東京都練馬区の有心会で週1回の稽古と、野間道場の朝稽古に週に2回出席しています。アイ・ビー・エムの稽古も月2回あるので、それにも参加しています。あとはゴルフを少々といったところです。

この大会には10年ほど出ていました。前回と今回のいいところは、かつてお客さまだった人や顔見知りだった人がいること、「また会いましたね」といった同窓会のような雰囲気です。試合自体も、年齢や段位が近い方同士で対戦するので、まったく若い方と対戦するよりもやりがいがあると感じています。



山後光雄選手
(75歳・日本アイ・ビー・エム本社)



福岡市に本社を持つ物流企業である。昨年、剣道経験者を7名採用し、創部したばかりだ。昨年9月の全日本実業団大会でもベスト32に進出。今年の2月、会社の敷地内に試合場2面を取れる剣道場が完成し、週3回の稽古が確保できることになった。

「剣道が続けたいと思っていたので入社しました。決めるべきところで勝てたことは自信になりました。これからはがんばりたいと思います」(西原選手)

六段以上の部最年長

出身は岡山県の倉敷です。愛媛大学へ進学して、私たちのところに大学で剣道部を創部しました。毎年最年長記録を更新しつづけています。生涯剣道として続けていきたいと思っています。後進のためにも、「まだできるんだ」というところを見せたい。80歳になったら八段を受審する。100歳になっても京都大会に出るからまさに剣縁です。



川上昌祐選手
(80歳・住友生命保険本社)

と公言しています(笑)。ベスト16が一度ありました。試合は弱いんです(笑)。女房が8年前に亡くなったのですが、今娘が応援に来てくれて、今は娘が応援に来てくれます。娘は初段を持っています。三井住友海上の百練館道場で週に2回稽古をしています。1年前に転居したところから歩いて5分ほどのところにある修武館山田道場では朝稽古がありまして、週3回行っています。

付き添っていたお嬢様とともに

五段以下の部



決勝
菅原 ①— 安永
洋自動車 三菱電機本社

序盤で菅原が力強いドウを決める(写真)。その後、安永のメンや菅原のコテなど、思い切った技の応酬が見られたが時間切れとなり、菅原が優勝



準決勝
安永 ②— 馬場
三菱電機本社 キリン

端正な構えの馬場が惜しい技を何度か放ったが、安永のスピード感あるメンが終盤、みごとに馬場をとらえた(写真)

